史料室だより No. 82 東洋英和女学院史料室委員会
発　行　2014年5月22日

特集：東洋英和幼稚園100周年（1）

今年度は二号にわたり、100周年を迎える東洋英和幼稚園の歩みを振り返ります。
今号では、保育の担い手がどのように育成されたのか、に焦点をあてます。

「宣教師の方々によって種蒔かれた神の栄光を顕す保育と子どもの真の幸福追求の保育」
―東洋英和女学院短期大学保育科で学んだこと―

長山　篤子

― はじめに ―

この度、東洋英和女学院史料室から、私が当学院で学んだ1957年から1959年までの２年間の保育科で受けた教育について「印象深かった授業」を記述するように原稿の依頼がありました。57年前の学びですから、資料は殆どありませんので（一つだけ残っていました）大部分は心に残っている「思い出」として記述することにしました。特に、教科目名は定かでありませんし、私の思い込みや記憶違いが多々あるかもしれません。この事を補う為に、この原稿と「キリスト教保育125年史」の序章執筆原稿がたまたま重なりましたので、「短大保育科で学んだこと」を振り返る資料として、「125年史」序章に引用した女性宣教師の言葉を軸に、保育科の授業を振り返ることにしました。

私は、「125年史」の序章を執筆するに当たり、キリスト教保育の歴史を改めて学ぶ機会が与えられました。特に、宣教師の方々が、どのような思いで日本の幼稚園を開設され、その進展に貢献されたかを多く知らされました。更に、保育者が幼子にどのような姿勢で向き合う事が大切かを学ぶ事ができました。その全てをここで書き表すことはできませんが、1907年宣教師連絡機関（Japan・Kindergarten・Union）の第一回年次総会での会長ハウ女史（アメリカ）の挨拶にその理念を見ることができます。ハウ女史は「キリスト教保育を志すものは、信仰面に於いても、教育面に於いても最高のものを目指して神の栄光と子どもの真の幸福が追求されなければならない」更に「・・・キリスト教保育を行うためには幼稚園そのものが徹底した正しい教育をするのでなければ神の栄光をあらわすことはできない・・・」と述べました。ハウ女史が述べたこのビジョンは、その後、キリスト教保育を実施している園の保育理念の柱となり今日まで受け継がれてきました。私が学んだ東洋英和女学院短期大学保育科に於いても、この信仰に基づいたビジョンは、カナダミッションの宣教師の方々により引き継がれ、校風の中に、授業内容の中に組み込まれていたように思います。保育科での学びから半世紀以上の時を経て、今、ハウ女史のこのことばに出会ったことを不思議な思いで受け止め、保育科でハウ女史の言葉の証しの実践として授業がなされた当時の授業を振り返ってみたいと思います。

短期大学教職員（敬称略）
前列左より：斎藤純子/佐藤広子/岩佐まつ
後列：サティ /松尾芳子/スクルトン/鎌倉千槙/
黒田成子/ジュティーン/山崎鏡子/長野静江
（1953年頃）

― 保育科1957年から1959年の いくつかの授業を振り返る ―

○キリスト教保育の学びが漂う校風

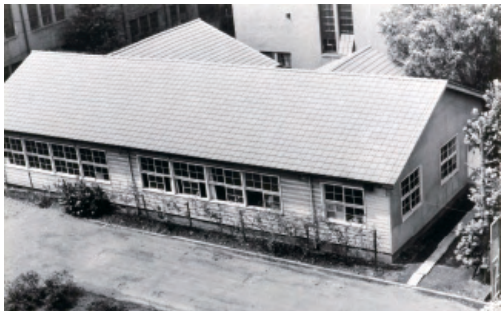
当時の保育科は一学年一クラスでした。私のクラスは42名でした。二学年で、保育科だけで85名くらいでした。学科は二学科あり、英文科がありましたので全部で四クラスでしたから、学生数は200名弱だったと思います。ですから、二学科の先生方が双方の授業や学生活動に関わっていらっしゃいました。現在のような先生方の研究室はありませんでしたので、職員室に伺うと色々な先生方にお目にかかることができました。英文科の松尾芳子先生は、保育科の授業には関わっていらっしゃいませんでしたが、保育科の学生にもよく声をかけてくださっていましたので、私たちは授業を受けていなくても存じ上げていました。聖書の授業を担当して下さっていた非常勤の高木幹太先生はいつも遅刻をし、松尾先生から叱られている様子に、私たちは大喜びをしました。高木幹太先生の授業は大変興味深く、聖書を通して生きる意味が伝わり、自宅まで講義の続きを聞きに伺いました。短大校舎は平屋の木造で、先生方の動向が良くわかり、仕事ぶりが学生の私たちにも伝わりました。礼拝で外部の先生が聖書のメッセージを伝えて下さった後など、職員室に自由に入れましたので、私は高見沢潤子先生の講演の後、職員室で信仰について色々お話をうかがうことができました。私はその翌年のイースターに受洗しました。宣教師の先生方、教科担当の先生方、職員の方々と学生が、一つになって「神の栄光を顕す保育者の養成」を目指す雰囲気が校風に満ちていたように思います。宣教師の先生方は、近くの宣教師館にお住まいで、時々私たちを招いて下さいましたので、先生方の生活、信仰を通してキリスト教の雰囲気を更に味わう事ができました。

○「子どもの真の幸福を求めた」授業の数々

・宣教師スクルトン先生の授業

【児童の宗教教育】

カナダの宣教師として遣わされた先生は大変おしゃれな先生でした。髪型、服装、靴にいたるまでシックな品格を漂わせる雰囲気の中で、凛として、保育者としてのあるべき姿勢を私たちに伝えていました。私は、このような姿勢で、子どもや保護者の前に立ちたいと憧れていました。ですからこの雰囲気を忘れないように、昨年までスクルトン先生の授業ノートを保管していましたが、仕事をリタイヤすることと引越しが重なり処分してしまいました。今とても残念に思っています。私は、半世紀以上も前の先生の雰囲気とイメージを思い出しつつ、保護者や学生の前に立つようにこれまで心がけてきました。授業の初めは、讃美歌187番「主よいのちのことばをあたえたまえわが身に・・・」を必ず歌いました。英語での授業でしたので、英語の苦手な私は、通訳の方を通して先生が伝える聖書の奇跡の意味を一生懸命に考え、子どもにどのように伝えるか、悩んだことをノートに記していました。2010年、日本の保育界をリードされ保育学会長を務められた津守真先生が、学会講演でスクルトン先生から学んだ保育者として生きる姿勢について語られ、改めて英和の保育科でスクルトン先生の授業を受けることができたことを幸いに思いました。



短大木造校舎

・宣教師ジュティーン先生の授業【教育方法】

ジュティーン先生は、アメリカから遣わされた若い宣教師の先生でした。表情が豊かで、ウインクで私たちを授業に引き込んでいました。日本語が通じない事柄も身振り手振り表情で意志を示され、通訳の方なしで授業を進められることもありました。私が印象深く今も思い出しますのは「幼稚園の教育はいつも正しくなされなければならない。しかし、その方法は時計の振り子のように行ったり来たりするので判断を誤ってはならない」と黒板に時計の絵を板書しながら熱心に説明して下さったことです。正確な言葉を記録しているわけではありませんが、内容は鮮明に覚えています。ジュティーン先生には、1990年頃より、キリスト教保育連盟で「日本の保育内容、教育システム」などを「アジアキリスト教保育者協議会」に知らせるための英

短期大学教職員　（敬称略）
後列左より黒田成子／金田真澄、中央にキュックリッヒ、
右隣鎌倉千槙、一人おいて芝原翠（1961年修養会）

訳の仕事で大変お世話になり、改めて、東洋英和での出会いを感謝しました。

・宣教師キュックリッヒ先生の授業

【家庭教育と両親教育】

キュックリッヒ先生はドイツから遣わされた宣教師の先生でした。毎週埼玉県加須市から、私たちの授業の為に一生懸命に通ってこられました。今のように交通事情が良くありませんので、六本木の英和にいらっしゃるのはどんなに大変だったかと思います。大きな体を引き摺るようにして呼吸も荒く、授業を始められました。「ママさんはねー」と冒頭から母親の役割について事例を通して語られました。キュックリッヒ先生自身の戦争体験、恋人を戦場に送り出した時の気持ち、日本に遣わされた経緯、養護施設「愛の泉」を開設されたことなど、学生の私たちは、毎週涙を流して「講義と証し」を伺いました。当(まさ)に、「子どもの真の幸福の追求」を私たちに伝えて下さいました。

・大中寅二先生の授業【児童唱歌】

英和保育科の入学試験の時から印象的な先生でした。讃美歌122番「みどりもふかき」を、大中先生を中心にした先生方の前で、一人ひとり歌わされました。先生は、入学試験ですのに歌唱指導をなされ、私はその指導に引き込まれ、その後現在に至るまで122番の讃美歌を歌うたびに先生の表情が目の前に浮かびます。現在私の当時の授業の資料として残っているのは、大中先生の課題レポート「幼児に適した歌と不適当な歌」と、先生の私のレポートに対するコメントの手紙です。１年生の時の課題ですのに、

大中寅二先生

現在の大学生３，４年生に匹敵するような課題でした。丁寧なコメントは、私の保育者生活の宝となりました。二枚にわたる手紙の最後に「私が、ほんとうにむつかしいと思っている音程の跳躍のこと、讃美歌のことにつき、お互いに話し合って研究したいとおもっています」とあり、大中先生の達筆なサインが記されていました。（資料有り）宣教師の先生方が述べられた「幼稚園の正しい教育」に、音楽家として真摯に向き合っていらっしゃる大中先生との出会いでした。

・その他の授業

村岡花子先生【児童文学と言語指導】に読んでいただいた『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』は、今も大切に教会の児童文庫で読み続けています。岡部弥太郎先生の【教育心理】では、２年間通して「自分の幼児体験とその分析」でした。今思うと大変高度な授業でした。この時使用した先生の著書は今も保管しています。谷川貞夫先生の【社会事業概論】は、殆ど一冊の本を先生が読み上げそれを私達が筆記し、授業中にノートを作り上げました。手が痛かったです。

― おわりに ―

この紙面では書きつくせない大学・大学院並みの授業は、私の長年の保育者として、養成校の教員としての働きの基盤となりました。宣教師の先生方が伝えて下さった「キリスト教保育が大切にしなければならないこと」を学び「神への信頼と恵みのもとに生きる幼児への愛と理解の保育を実践する」授業をうけて、私たちは学校から示され、与えられた職場へと旅立ちしました。私の最初の働き場は、伊豆松崎教会付属幼稚園でした。

（1959年短期大学保育科卒
　キリスト教保育連盟前理事長　名誉理事）

ハミルトン先生を回想して

芝　　恭子

1951年４月、東洋英和女学院短期大学保育科に入学し、ハミルトン先生にお出会いしてから60余年が経ちました。東洋英和の歴史に重要な位置付けをお持ちの、ミス・ハミルトンを物語る史料が多い中に、一卒業生の私が個人的なエピソードを加えることへの大きなためらいを覚えます。しかしその一方で、先生の在りし日、確かにご一緒する幸いを得た一人として、私にお示しくださったお姿を同窓同労の皆さまにお分ちしたい気持ちも否めません。

そこで、過ぐる歳月の折々に、あたかも映画の瞬間的な回想場面、フラッシュバックのように私の瞼（まぶた）に浮かぶハミルトン先生のお姿を、“フラッシュ”の形で書いてみることにいたしました。個人的なエピソードの記述には、ミス・ハミルトンでなくハミルトン先生とお書きしますが、それはお出会いの時からそうお呼びしてきたからに他なりません。

演出家のハミルトン先生

保育専攻部から短大保育科に改組して２年目のカリキュラム中、「児童の宗教教育」と「外国語」を、ハミルトン先生がご担当になりました。両科目とも、私にとって印象深く記憶に残る場面は、教室でのお講義より学生自身に実動を求めるスタイルのお授業です。「児童の宗教教育」では、保育あるいは日曜学校（当時の呼び方）のクラスで子ども達に聖書の話をする教師役の学生に、他の級友全員が生徒役として対峙します。当時短大と青楓寮の礼拝に使われていたチャペルが教室になりました。司会当番の学生は、一クラスを導く教師となって子ども達をまとめ、聖話に聴き入るための働きかけを行うのです。子ども役の学生達は日頃見聞きした子どもの状態を遠慮なく演じ、先生役はそれに対応しながら聖話に集中する子どもたちへと導き、遂には準備してきた聖書のおはなしをする、という学習体験でした。この活動が終わるとクラス全員で評価の時があり、締めくくりにハミルトン先生からご講評いただきました。『カナダ婦人宣教師物語』ミス・ロークの頁にも同様な記事を見ます。（p94・95）

私の場合、日本語の発音が先生には明瞭に伝わったのでしょう。後日、新しくJ３（３年間の予定で来日する短期宣教師）として赴任されたミス・ラングランドの、日本語家庭教師になるよう仰せつかりました。これがきっかけで宣教師館には毎週伺い、そこにお住まいの先生方とも親しくさせていただきました。私が多くの宣教師方を存じ上げる所以です。

「英語」は、１年次の必修科目で聖書物語がテキストでした。保育科入学がキリスト教入門の時となった私にとっては大変嬉しいテキストでした。当時殆どのクラスメートは既にクリスチャンでしたので、彼女達にはまた別の感じ方があったかも知れません。

２年次に「英語」は選択科目となり、39名中私を入れて６名が、ハミルトン先生から続いて英語を教えていただくことになりました。ここで先生は、さらに本格的な演出家のお仕事をなさったのです。英語劇をすることになったのでした。

ハミルトン先生
（1954年）

青楓寮　当時の短大保育科はこの建物の３、４階を使用

1954年当時の宣教師たち　左より：ホーニング、イエドン、ジュティーン、トルーマン、ハミルトン、サンダース、ダグラス、ラングランド（宣教師館前にて）

先生はドラマのテキストにタイ国の若き高官とその美しき妻、彼の母（妻にとっては姑）が登場する物語を選ばれました。テーマは、愛する夫・愛する息子を巡る嫁姑の確執と和解であったと、はっきりした記憶はここまでで、本のタイトルも作者も思い出すことができなくて残念です。

３名の登場人物に６名の役者。ちょうどダブルキャストになりました。その上、履修者は２名ずつ、それぞれの役にピッタリな顔触れだったのです。先生は、この条件を念頭にテキストをお選びになったに違いありません！私は姑役の一人でした。６名の演技に対して難しいご注文は出ず、当然ながら会話の英語に対する細やかなご指導がありました。学期末には、当時隣接していた幼稚園のホールで、クラス全員に観てもらいました。一同、配役の妙に感じ入った様子でした。

『カナダ婦人宣教師物語』にも、ミス・ハミルトンの発案で、先生方が即興の英語劇「桃太郎」をなさり（p.76）、生徒達を「大感激」させたと記されています。中高部にも演出家ミス・ハミルトンのお姿があったと知り、大変嬉しく感じました。

ハミルトン先生に派遣される

英語劇の興奮から醒めた或る秋の午後、ハミルトン先生のお呼びで私は教授室に伺いました。先生は「これを持って霊南坂幼稚園に行って来なさい」とおっしゃり、F.G.ハミルトンと縦書きにお名前が印刷されたお名刺をくださいました。肩書の小さい文字も見えましたが、お名刺のサイズが私にとっては驚きでした。当時女性が名刺を持つ場合、私の知る限りですが、男性の名刺の三分の一くらいのサイズに作られていたものです。ハミルトン先生もそのしきたりに従った名刺をお持ちなのか・・・先生のご存在全てに対してふさわしくないサイズだと、申し訳なく思いました。

牧師・園長　小崎道雄先生（檀上）と著者
霊南坂幼稚園クリスマス礼拝（1957年）

霊南坂幼稚園に行くとは、就職面接に行くことです。当時はこのように、各幼稚園の条件と各学生の状態や希望を良くご存知の先生方が、双方を結びつけて下さり、よほどの事が無い限り、園側は紹介された学生を受け入れるのでした。私は就職を斡旋して頂いたと感じるより、ハミルトン先生が派遣のご命令を下されたと感じ、心身引きしまる思いでした。

ハミルトン先生に送り出される

もともと、自分の教会幼稚園で働く目的をもって入学した学生が多い時代ではありましたが、保育科の学生が一人でも多く、信仰と幼子（おさなご）を育む使命・喜びを携えて卒業するように、２年間の教えに祈りと専門性を注がれた先生方でした。その先頭にお立ちのハミルトン先生は、卒業の日一人一人に、ご自筆で宛名を書き、With best wishes, F.G.Hamiltonとサインなさった、“My Graduation Day Prayer”という訳文も付いたカードを贈ってくださいました。

「…私は今から、真理に向って絶えざる追求を為すため出発致します故、今日が真の意味の卒業式、コメンスメント、始まりの日ならしめ給へ。（ママ）アーメン」

ハミルトン先生のお出迎え

保育科卒業を第一番目のコメンスメントとしますと、その後私はもう一つのコメンスメントを経て、カナダ合同教会のスカラシップを頂き、留学することになりました。1963年７月22日横浜港を出航したオーストラリアの大型客船は、８月１日夕刻、今や静々と森のような深い緑に包まれたバンクーバー港に舳先を進めていました。これがカナダ・・・宣教師の先生方を日本

バンクーバー入港時の同船者たち　左から２人目が著者
右端は陶山義雄先生　（1963年８月１日）

へ送りだされたカナダ・・・それは余りにも深く広く、緑なす静かな入り口、B.C.州バンクーバーの港でした。

下船許可が出てタラップを下りますと、あゝそこにハミルトン先生の、あの長身のお姿が在ったのです！先生は当時B.C.州と州は同じでも、バンクーバーからバスで８時間もかかる、ナラマタという所にお住まいでした。カナダ合同教会関係のどなたかに迎えて頂くとは知っていましたが、私が表敬訪問に上がる前に、先生ご自身がお出まし下さったのです。それどころか、先生とご一緒に出迎えられた４名の方のリーダーとして、私のスケジュールを作ってくださっていたことを知りました。

1956年、東洋英和ご引退以来の再会を、私はどのようにふるまったのか、先生が差し伸べられた手にお縋りしたのか、全く思い出す事ができません。とにかくご挨拶が一通り終り、構内のレストランでお茶を、と歩き出した時からの光景は今もはっきり覚えているばかりか、フラッシュバックとなって私を懐かしがらせ笑わせ続けています。

出迎えの青年を指導なさるハミルトン先生

先生方と歩き出した私は、ふと視線を感じてその方を見ました。なんともう一人、出迎えて下さった方がいたのです。何年か前に、霊南坂教会で小崎道雄牧師からご紹介を受けた青年でした。小崎先生はアメリカご留学が長く日本基督教団総会議長もなさり、海外にご友人を多くお持ちで、この青年はそんなお一人の令息でした。霊南坂幼稚園就職に伴い鳥居坂教会から転会した私を、先生は園長、牧師そして慈父のように見守り続けてくださいました。私のバンクーバー入りを、近郊のご友人に知らせておありだったとは・・・お父上の代役で来てはみたものの、錚々たるおばさま方に囲まれた私に近づくことができなかったとのこと。私はハミルトン先生に彼を紹介し、先生は気持ちよく彼もお茶に誘われました。お茶の後一同は、彼の車で暮れなずむバンクーバー周辺をドライブしました。

やがてホテルに着けてもらった時、私は彼に心からの感謝を述べ、留学生活の予定を話そうとした時でした。ハミルトン先生が彼にこうおっしゃったのです。「ミス・シバは、大切な目的をもってカナダに来ました。これからトロント大学で幼児教育を学びます。遊んでいるわけにはゆきません。おわかりですね。誘わないように・・・」日本語で言えばこんな意味のことを、お父上の名代で出迎え、ドライブのおもてなしをしてくださった青年に申し渡されたのです。私はもうびっくりし、彼も目をパチクリという表情の後、穏やかな笑顔で先生に応え、静かに去って行きました。

先生はその後、私にはご注意めいたことを何もおっしゃいませんでしたが、「大切な目的」に備えて、この上なく平安な休息“ナラマタホリデー”の数日をくださったのでした。

最も大切なハミルトン先生のフラッシュバック

ハミルトン先生の回想ラストシーンは、短大のチャペルに座された先生の後ろ姿です。礼拝で神に祈りと賛美を捧げ、証の担当者に聴き入るお姿には、立場も国籍もありませんでした。未信者の一学生は、人間存在の新しい秩序を知らされました。私はこれまでもこれからも、先生の後ろ姿を一番好きで大切なフラッシュバックとして見続けることでしょう。

前掲の『物語』にも、先生の後ろ姿が語られていて感慨深く、また「史料室だより」No.42で上記の体験を書く機会を頂きました。

（1953年短期大学保育科卒　大学名誉教授）

著者とハミルトン先生　カナダ・バンクーバーにて
（1963年８月２日）

青楓寮・短大のチャペル

〈思い出の先生がた〉27　ミス・マシューソン

ミス・マシューソンの思い出

ミス・マシューソンは28才の時、カナダ・メソジスト教会宣教師として来日された。東洋英和に２年、山梨英和に３年奉職された後、賜暇休暇の帰国中に太平洋戦争が始まり、再び来日されたのは、1948年40歳。その後12年間東洋英和中高等部の英語と宗教教育、そして増設された短期大学英文科の英語・英文学を担当された。1960年に帰国され、晩年は、関節炎のため療養生活を送られたが､｢神様に守られた愛するホーム｣、東洋英和の思い出を大切にされていた。

1953年３月高等部卒の私たちは、40代のミス・マシューソンにどこかの学年で教えていただいた。敗戦後の衣食住もままならぬあの頃に、先生はいろいろな方法で英語の世界を私たちに見せてくださった。美しい板書の後、心を込めて詩の朗読をして下さった。時にはイタリー語で「フニクリ・フニクラ」を楽しく教えてくださった。行ってみたい国とその理由を簡単に書くようにという作文練習もあった。「スイスに行ってみたい。その美しい山と湖を見たい。戦争をしない国を見たい。」と私は書いた。その思いはそれから数十年後に実現し、平和を維持することの厳しさを知った。ある時は、放課後の宗教部の小さな聖書研究会で、キリストの祈りについて静かに日本語で語られた。当時の文語訳聖書で、「常に喜べ、絶えず祈れ、すべてのことに感謝せよ」の聖句を学び、先生のゆるぎない生き方の中心を教えていただいた。W.Wordsworthの“The Solitary Reaper”を教えていただいたことを懐かしく思う友は多い。“Stop here, or gently pass!”の一行が、横断歩道に来ると今も聞こえてくると、楽しい話がはずむ。自分の英語力を総動員して、劇の練習のため授業を欠課させてくださいとお願いしたら、静かに聞いてくださり、許可して下さった。その眼差しと共に先生の思い出は忘れられないと語ってくれる友もある。

後に中高部の英語教育に加わることになった私に、英語のことなら何でもどうぞとおっしゃり、テキストの読み方を何度か聞いていただいたこともあった。先生方とのお付き合いを大切になさり、音楽・理科・社会・国語・聖書の先生方とも英語の集いをしておられたようである。後に、有志によるミス・マシューソンの追悼会が奥興先生の三軒茶屋教会で行われた時にも、多方面の方々が出席された。礼拝の司会を理科の原和子先生が、説教を奥先生がなさった。そして２階の談話室でしばらく思い出を語る会があった。卒業生をはじめ、分野の異なる先生方が、ミス・マシューソンを慕う感謝の言葉を述べられ、時間が足りなかった。

ミス・マシューソン

国も社会も、敗戦からの復興が始まったばかりの頃、中高部のどこかでミス・マシューソンに英語と共に広い視野と信仰を教えていただいたことは、本当に幸せであった。先生の柔和な微笑みと、学問に裏打ちされた真面目さ、そしてはるかな神の国を慕う眼差しを私たちはいつまでも覚えていたい。先生の天における平安を心からお祈りいたします。

文　依田　和子
（1953年高等部卒　元中高部英語科教諭）

Mildred Evelyn Mathewson 先生
―略　歴―

1908年３月29日　カナダ・オンタリオ州リッジウェイに生まれる
トロント大学､オンタリオ教育大学、カナダ合同教会神学校に学び、高校教師となる
1936年　来日　東洋英和女学校に着任
1938年　山梨英和女学校に赴任（～1941年）
1941年　カナダ帰国　ユナイテッド・カレッジ、トリニダード島ナパリマ女学校勤務
1948年　再来日　東洋英和女学院中高部、短期大学勤務（～1960年）
この間、御茶の水の愛隣学園理事も務める
1960年　帰国
1986年11月29日永眠（享年78歳）

〈資料紹介〉24

東洋英和の絵葉書

日野原　千紘

東洋英和の史料室には創立から現在までの刊行物や写真、東洋英和に関わった方の史料がたくさん保存されています。中でも絵葉書は行事や改築の記念として作成された貴重な記録写真であったり、卒業生の方が東洋英和の事を想って作成してくださったりと、多くの方が関わってくださっている物の一つです。2013年６月より今年の２月まで学院史料展示コーナーで主だったものをご紹介しましたが、展示しきれない程の数がありますので、今回は一覧にしてご紹介します。

②創立三十年記念：東洋英和女學校校舎

③献堂式記念….：幼稚園傳導館正門

番号	制作年	名　目	枚数	内　容	備　考
1	1914年	創立三十年記念	15枚	・明治十八年（1885年）撮影の教職員と生徒たち	表紙付き（表は菊、裏は楓の葉）★① 原物１セットのみ所蔵
				・大正三年（1914年）現在生徒	
				・東洋英和女學校校舎★②	
				・書籍室	
				・西洋料理室	
				・家政科食堂	
				・客間に集まる第二世代の生徒	
				・唱歌練習	
				・職員會	
				・食堂	
				・東洋英和女學校洗濯日	
				・母ノ會委員會	
				・幼稚園	
				・永坂孤女院食堂	
				・永坂幼稚園	
2	1931年	昭和六年　十一月　東洋英和女學校	５枚		原物なし
3	1932年	献堂式記念　カナダミッション合同教會　幼稚園傳導館	６枚	・幼稚園傳導館正門★③	ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計 原物２セットのみ所蔵
				・幼稚園傳導館　幼稚園遊戯室	
				・青楓寮　西洋教師館　幼稚園傳導館	
				・傳導館社交室	
				・傳導館料理室	
				・定礎式	
4	1934年	東洋英和女學校落成記念	８枚	・東洋英和女學校	ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計
				・マーガレット・クレイグ記念講堂	
				・圖書室	
				・作法室	
				・室内体操場	
				・食堂	
				・理化教室	
				・同窓會室	
5	1934年	日本メソヂスト教會第二十八回年會記念　東洋英和女學校	６枚		ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計

①創立三十年記念：表紙

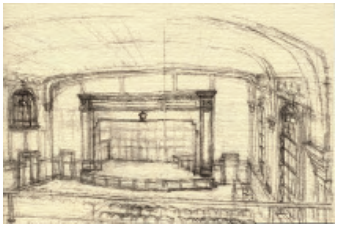
④創立六十五週年記念：
（ヴォーリズ）校舎

⑤東洋英和幼稚園創立80周年記念：
園庭にて

⑥TOYO EIWA WOMEN'S
UNIVERSITY：礼拝堂（チャペル）

⑦The Blooming Seasons：
A Portrait of Youth（卒業式）

⑧小学部　校舎の思い出：
（5年生の作品）



⑨旧校舎のスケッチ1993年夏：
マーガレット・クレーグ記念大講堂

番号	制作年	名　　目	枚数	備　考
6	1949年	創立六十五週年記念絵葉書　第一集・第二集	各5枚	★④
7	1951年？	短期大学　（木造校舎）	4枚	
8	1962年	東洋英和幼稚園	5枚	
9	1968年10月4日	短期大学　校舎改築記念	5枚	
10	1973年2月24日	かえで幼稚園　献堂記念	6枚	
11	1986年5月10日	横浜新校地開設　短期大学開学記念	6枚	
12	1987年7月	TOYOEIWA JUNIOR COLLEGE	6枚	
13	1994年	東洋英和幼稚園創立80周年記念	10枚	小瀧達郎氏撮影★⑤
14	1995年4月	TOYO EIWA WOMEN'S UNIVERSITY	3枚	★⑥
15	1996年2月	The Blooming Seasons 中学部・高等部校舎竣工記念	11枚	★⑦
16	1997年6月	大講堂（中高部）のオルガン	7枚	
17	1998年	小学部　校舎の思い出	12枚	★⑧
18	1999年または2000年	TOYOEIWA　UNIVERSITY	3枚	

外部または卒業生・教員製作

19	1964年	東洋英和女学院		「絵はがき　麻布の名所今昔」下巻 川村みのる画　　永坂更科発行の１枚
20	1967年	麻布鳥居坂		H.Jomai画　麻布十番商店街発行
21	2008年	中高部旧校舎　正面玄関		増田彰久氏撮影　　便利堂制作
22	2010年	東洋英和女学院・旧本館《W.M.Vories設計・建築遺産シリーズⅨ》		小阪謙造氏画
23	不明	木版画はがき　軽井沢追分寮	5枚	
24	不明	軽井沢追分寮	3枚	井上健之助先生画
25	不明	野尻	7枚	森田のぞみ先生画
26	2001年～	野尻	14枚	露木美奈子先生画
27	2000年	旧校舎のスケッチ 1993年夏	16枚	佐藤和子氏（1950年高卒）画★⑨
28	2002年～	Our School Life	8枚	中畝治子先生画

★①～⑨は画像の番号を示す

もし、記載されていない絵葉書あるいは戦前（特に１・２・３）の原物をお持ちの方は、ご連絡いただけると幸いです。

（幼稚園教諭　史料室委員）